

大 図 研 ぐんま支部報

2013.3.25

Vol.11

No.1

<目 次>

全国大会報告 第43回大図研全国大会に参加して	井ノ口雄久	1
報告「書物・出版と社会変容」研究会に参加して	瀧澤 憲也	3
落合先生最終講義受講に感謝して	宮下 明美	5
群馬支部大会報告		6
図書館関連ニュース		9
お知らせ		9

全国大会報告 第43回大図研全国大会に参加して

井ノ口 雄久

今年は京都で開催された。大変暑い日でした。夜行バスを利用したため、朝早く京都に到着した。少しは御手伝いができるかと思ったが、事前準備はほとんど京都支部で済んでいた。

時間があったので、駅にあった嵯峨野周辺の地図を手がかりに嵯峨野を見物した。大沢池、広沢池とめぐって、亀山公園を散策。公園に点在する百人一首めぐりは楽しかった。およそ3時間程度。足は棒のようになったが、大変楽しかった。亀山公園からの保津川の流れと保津川下だりの光景は優雅で美しかった。40年前に訪れた嵐峡館での宿泊を思い起こさせた。久しぶりのゆっくりとした時間はなんともいえなかった。

全国大会はさすが京都開催だけあって、150人を越える参加者があり、盛大といって良かったと思う。研究発表の3本は京都支部の力量を示すものだった。

研究発表は、①京都府医大の山下ユミさんが、医学部を持つ大学図書館がどのように学部生に対する授業に関わっているかの実態調査の報告 ②神戸大の小村愛美さん・阪大の土出郁子さんと森石みどりさんからラーニングコモンズデザイン会議@大阪で行った「パターンランゲージ」の手法を使ってラーニングコモンズのデザインという場を考えていくことを提案し、ワークショップや活動状況の報告、③国際日本文化研究センター図書館の江上敏哲さんが書かれた『本棚の中のニッポン』について、日本語の本が海外の図書館でどのようになっているかという報告、今多くの図書館員が興味を持った話題の提供とその思いを聞くことができた。

また、記念講演では、国際に本文化センター長の小松和彦先生から「妖怪画の伝統と創造」というテーマでの話である。子どものころ、お化けの話はよく聞かされて怖い思いをした経験は誰でももっていると思うが、妖怪というものがその国の生命観とも深く結びついていて、日本は世界でも類を見ないほどのたくさんの妖怪を創り出してきたという伝統は大変特異で、日本という国の歴史や文化と大変深い関係にありその研究は意義深いものであるとの話は大変興味をそそ

られた。

分科会は、自分が担当した「リカレント教育」と「機関リポジトリ」に参加した。

「リカレント教育」については、日本の図書館界にはあまり普及しているとは言えず、多くの図書館員にとって、関心事であると思われるが、どう対応してよいか難しいテーマではある。参加者も8人と大変少人数で、発表者即参加者という状況であった。内容は、3団体の試験制度を中心にその意味や現状、今後の展開等話し合った。それぞれの関係者が重なり合っているようだが、一同に集まったの意見交換はそれほど無いようであった。その点で、参加者はそれなりに評価してくれたようである。参加者は少なかったが、意味ある分科会だと思われる。大学院、資格試験とテーマを考えてきたが、これからどう進めていくか難しい状況である。大切なテーマであるが、今後の展開が見えない問題である。結局資格と図書館員としてのレベルアップが現実問題としてつながり見えないところに問題があるようだ。しかし、図書館運営上、サービスの質を高める上で、避けて通れない問題でもある。とりあえず、試行錯誤するしかないかとも考えている。

「機関リポジトリ」は政策とクラウド型リポジトリの実施についての話を中心にオープンアクセスの必要性和図書館のかかわり方について、話し合いが行われた。個人的に興味はあるが、充分理解できたとは思わなかった。自分の勉強不足を痛感した。やるところはやっているのだな。

自主企画は、「酒」についての分科会に参加した。試飲もあり、酒の蘊蓄も聞くことができ、大変楽しかった。いいものはいいのだと思った。最後のシンポジウムは、私の関心事でもある図書館員のレベルアップにも関係した話である。大変勉強になった。

最終日は、シンポジウム「大学図書館のアドボカシーとは？：存在意義を伝え、共感を得るためには」であった。パネリストとして、大阪大谷大学の杉山誠司先生、聖学院大学総合図書館の菊池美紀さん、大阪府男女共同参画推進財団の木下みゆきさんであった。アドボカシーという言葉はあまり聞きなれない言葉ではあり、いくつか意味があるが、ここでは、自分たちの活動を知らしめるための特別な行動や計画をさす。言ってみれば、宣伝活動と言うようなことか。図書館は、大学の中で重要な位置になくはならないと形式的には言われているが、果たして実態はというと必ずしもすべての教職員、学生に必要とされているとはいいいがたい。そのためにどうすればいいかを自治体の情報機関、大学図書館の職員が具体的な実践活動の報告があった。さらに杉山先生からは、「人」の重要性にも触れられ、図書館職員のステップアップをどうするかということも問題であると提起された。この問題は組織としてどう考えるかという問題も含まれていると感じた。何をやっているかを経営層に知ってもらうためには、活動報告をわかりやすくアピールし、日頃の活動を通して個々の教職員や学生に対して役に立つ情報を提供しその存在を認知してもらうこと、これしかないということに改めて考えさせられた。

恒例の最終日の見学は、京都女子大図書館を見させていただいた。私は、学生ボランティアの活動に大変興味をもった。数十人の学生が図書館活動に関心を持ち、関わっているは大変うらやましくも感じた。図書館職員も学生をお客さんではなく共に図書館を良くして行こうという思いを持っていることも好感が持てた。桂まに子先生の授業で製作したレファレンスPOPも見せてもらったが、今後どのように発展させていくかが課題という先生のお話である。図書館司書養成

に関わるものとして大いに参考としたい。

京都までの旅行は年でもあり、慣れない深夜バスの利用で夜はあまり寝られず、疲れはしたが、大変楽しく、有意義な旅でもあった。

■■ 報 告 ■■

「書物・出版と社会変容」研究会に参加して

瀧澤 憲也

「書物・出版と社会変容」研究会が11月10日（土）前橋テルサで開催された。事務局を一橋大学若尾政希研究室に置く同研究会は、各地に残る近世以降の書物や出版に関して活発な調査活動や資料の掘り起こしを行っており、その研究成果は研究会の開催や会誌『書物・出版と社会変容』などを通して報告されている。当日、発行されたばかりの13号（2012.10）が会場で配られた。

研究会は「群馬の歴史を考える会」と「大学図書館問題研究会群馬支部」との共催で行われ、東京など県外からの研究者と地元研究者など35人が集まり、群馬支部からは5名が参加して研究発表を聴いた。専門の研究者が集まる研究会という場を経験することができ、また参加者からの鋭い質問に私たちも緊張した場面が多々あった。

研究発表では地元群馬の研究者による以下の報告があった。

- 1) 巻島隆氏「富田永世と『上野名跡志』」
- 2) 和田健一氏「上州俳諧句碑の再検討」
- 3) 藤井茂樹氏「江戸後期上州山村の情報と文化高揚」

それぞれの報告で扱われた資料は、300年くらい前から江戸末期に至る上州・群馬の地域に係わる書物や句碑、個人の家に残る文書である。これらの資料を通して、当時の人たちが何を考えどう行動したのか、またこの地域の地誌とその編纂過程や文化的な状況などについて、各発表者の報告を聞くことができた。

発表中特に興味を引かれたのは、藤井氏の「江戸後期上州山村の情報と文化高揚」の中で語られる人物金子重右衛門照泰のことで、同家（沼田市利根町）に残る「家伝秘録」15巻をもとに作成された照泰の年譜を見ると、鉄道やバスのない時代に全国をめぐり、81歳にして「家伝秘録」12巻を編集執筆したそのエネルギーに大いに感心し、照泰という人はどんな人物だったのか興味を持った。

研究会の名称にある「社会変容」という概念はその意味するところや、どういった文脈のなかで語られるのかむずかしいと感じたが、「<書物・出版>と<社会>との相互的関係の様相を解き明かしていく」とした科研費の説明（この文章の最後で紹介）によって研究会が目指しているところを理解した。

研究会の呼びかけ人である若尾先生は、近世については「書物」を大切にしなければならぬのは2000年以降、と言われ、資料の掘り起こしが大切でありその可能性もある。地域に残るこれらの蔵書とその保存について研究してほしいと話された。

落合先生は、1970年代、近世以降の書物に対する研究は無かった。また、古文書の分類では、書籍は「雑」の項目に入っていたと言及された。そして1990年代以降、それぞれの地域には書籍があって、(地域の中でそれらは)具体的にどういう影響を人びとに与えたのか。また、江戸時代の地域認識とはどういうものだったか、実はその時代の人たちが書籍を残していたと話された。

研究会2日目は、群馬大学総合情報メディアセンター(図書館)にある新田文庫の見学会が行われた。県外からの研究者を中心に新田文庫の写本・版本や群馬女史師範学校時代の資料を閲覧し、各自の研究テーマに関連する資料を調査した。

大学院生など若手研究者も多く参加し、私たち図書館員が整理した資料が多くの研究者に利用されているのを見て、改めて大学図書館の資料整理と保存の大切さを目の当たりにした。これらの資料が今後それぞれの研究テーマに生かされればうれしいと思っている。

落合先生には研究会への参加の機会をつくっていただき感謝申し上げます。

(参考)

○「書籍・出版と社会変容」研究会の活動を概観できるので、以下に科研費(2005年～2007年)に報告された研究概要の一部を紹介します。

「日本における書物・出版と社会変容」(研究課題番号:17202017)

1. <書物・出版>と<社会>との相互的関係の様相を解き明かしていくために、A書物・出版と環境、B本屋・出版、C写本と刊本、D流通、E享受者・読者、F作者・思想家の6つの研究項目班を設定した。
2. 日本各地でフィールドワークを行い、資料の整理・掘り起こしを行った。
3. 「書物・出版と社会変容」研究会を3年間で22回開催し、各研究項目班の成果を持ち寄るとともに、ゲストスピーカーに報告をお願いした。この研究会には、日本史だけでなく、近世文学、日本語学、書誌学、民俗学、宗教史等々、さまざまな分野の研究者が集まり、学際的で刺激的な議論ができた。

○研究会の活動状況がわかる一橋大学若尾政希研究室ホームページ:

「日本近世史・思想史研究会の窓」

<http://www.soc.hit-u.ac.jp/~wakao/index.htm>

○一橋大学機関リポジトリ: HERMES-IR

300 Studies Group = 研究会刊行物

「書物・出版と社会変容」研究会 [115] も参照してください。

落合先生最終講義受講に感謝して

宮下 明美



平成 25 年 3 月を以って群馬大学を退官なさる落合延高先生の最終講義が 1 月 28 日行われました。テーマは「史料に魅せられて」です。先生は大学図書館問題研究会の群馬支部発足当時からのものである。2 度の全国大会を前橋で開催したときに、それぞれの回に講演をお願いしたので、全国の大学図書館員の中にはご存じの方もあろう。

授業をとっている学生 20 数名のほかに、昨年退官された数学の瀬山先生や社会情報学部の先生方、卒業生の多くが参加し、元大学図書館員の三田村さん、高林さん、そして群馬大学図書館に在籍していた折に、古文書読解の手ほどきを受けた宮下が拝聴いたしました。

当日の講義内容を、レジメに沿って簡単に解説していきたい。

1948 年東京下町生まれの先生が、歴史研究を職業とすると決めてから 1980 年群馬大学に奉職されるまでの 10 年余り、ご自身の体験を通して、今の学生への就職活動へのアドバイスをなさった。

*自分の 10 年間の回り道を通して、ちゃんとした職に就いた方がいいと思う。

*自分の人生だから納得いくまで。

*就活はお見合いと同じ、自分に合うかどうかで決めるように。

歴史の研究者として都内の大学では経験できなかった群馬での地域史料との出会いの経験を「放火の村議定」の文書、そして、附属図書館特殊資料室に収められている新田文庫の殿様の日記を読むことによってわかったこと、新田の殿様が領民のために書いたといわれる「猫絵」の意味等についてお話しいただいた。

そして、教養部が社会情報学部になるとともに先生の研究対象も「歴史を情報」という視点で捉えなおすという意味で伊勢崎の森村新蔵「享和以来新聞記」の研究、著書にまとめられた。藤岡の藤岡屋由蔵の紹介等があった。

最後に「学生諸君へ」とされた、締め言葉は、作家広津和郎「散文精神について」を引用されて、大学で学ぶことはあくまでも基礎的な学力、大学を卒業したら、勉強も終わりではない。専門知識や教養は社会の現場で学ぶものとして、「どんなことがあってもめげずに、忍耐強く、執念深く、みだりに悲観せず、楽観もせず、生き通して行く」精神の必要性を強調されました。

それらの言葉に感動している中で、社会情報学部の方々からと、大学図書館 OB のの方々から花束の贈呈がありました。

群馬支部 大会報告

日 時 : 2012年12月16日 (日) 14:00~17:00

場 所 : 群馬県立図書館 研修室

参加者 : 6人 (井ノ口 瀧澤 三田村 宮下 山内 吉井 : 記録)

1. 全国委員会報告(井ノ口)

・関東 5 支部合同例会 3/10 or 3/23

5 名の講師候補の中から、群馬支部として、津田大介氏、埜納タオ氏を推薦する。

・大図研の今後について

会員数 10/26 現在 503 名

支部の在り方を検討していこうという意見がでている。

支部単位の活動ではなく、研究グループ単位の活動へ？

支部還元金を廃止し、研究グループへの研究費に充てる。

・2013 年全国大会

会場: つくば国際会議場 <http://www.epochal.or.jp/>

日程: 2013 年 8 月 10 日(土)~8 月 12 日(月) 3 日間

支部が担当するのではなく、実行委員会形式で進める。

2. 会計報告

2011-2012 年度決算、2012-2013 年度予算承認(詳細は p.6-7 をご覧ください。)

3. 来年度支部活動について

予定: 偶数月の第3日曜日に活動

3 月 関東 5 支部合同例会

4 月 落合先生の講演

6 月 twitter や Facebook を使ってみよう(山内事例発表)

8 月 全国大会

10 月 合同研究会 (図問研、学図研など)

12 月 支部大会

4. 忘年会

丸尚寿司

2011-2012年度大図研群馬支部決算報告

2011.12-2012.11

収入の部（単位：円）

項目	予算額	決算額	備考
大図研会費	80,000	80,000	16名×5000
群馬支部会費	16,000	16,000	16名×1000
支部還元金	8,000	8,000	500×16名(1名あたり500円還元)
雑収入	0	43	預金利子
前年度より繰越金	203,341	203,341	
合計	307,341	307,384	

支出の部（単位：円）

項目	予算額	決算額	備考
会費納入	80,000	80,000	16名×5,000 納入
委員手当	10,000	10,000	全国委員手当(常任はなし)
サーバーレンタル料	3,000	3,000	
活動費	9,000	840	教室使用料(840円)
雑費	2,000	0	*振込手数料(0円)
次年度へ繰越	203,341	213,544	
合計	307,341	307,384	

上記のとおり報告します。

2012年12月16日 群馬支部会計 吉井 和子

通帳・帳簿を監査したところ上記に間違いありません。

会計監事 三田村道子

2012-2013年度大図研群馬支部予算(案)

2012.12-2013.11

収入の部 (単位: 円)

項目	予算額	前年度決算額	備考
大図研会費	80,000	80,000	16名×5,000
群馬支部会費	16,000	16,000	16名×1,000
支部還元金	8,000	8,000	500×16名(1名あたり500円還元)
雑収入	0	43	預金利子
前年度より繰越金	213,544	203,341	
合計	317,544	307,384	

支出の部 (単位: 円)

項目	予算額	前年度決算額	備考
会費納入	80,000	80,000	16名×5,000 納入
委員手当	10,000	10,000	全国委員手当 (常任委員は不在)
サーバーレンタル料	3,000	3,000	
活動費	30,000	840	教室利用料、その他
雑費	2,000	0	振込み手数料、通信費、その他
次年度へ繰越金	192,544	213,544	
合計	317,544	307,384	

図書館関連ニュース

■県内大学図書館の動向

・群馬大学総合情報メディアセンター工学分館改修、H25 理工学図書館としてリニューアルオープン

■「学位規則の一部を改正する省令」が公布

学位規則(昭和28年文部省令第9号)が改正されました。平成25年(2013年)4月1日から施行されるに伴い、博士論文はインターネットで公表公開が原則義務付けられます。これに併せて、国立国会図書館による博士論文収集方法も変更されます。

官報目次 平成25年3月11日付(本紙 第6002号)

<http://kanpou.npb.go.jp/20130311/20130311h06002/20130311h060020000f.html>

学位規則

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S28/S28F03501000009.html>

国内博士論文の収集について(国立国会図書館のウェブサイト)

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/hakuron.html>

お知らせ

群馬支部ホームページ(<http://www.daitoken.com/gunma/>)では、皆さんからの情報を募集中です。記事投稿や新しい企画アイデアがありましたら、群馬支部 gunma@daitoken.com へお寄せください。

●会員からお薦めの1冊

業務に役立つ1冊、話題の新刊書、好きな作家・・・あなたならではの視点でお薦め図書を投稿してください。ブックログサイト(<http://booklog.jp/users/daitoken-gunma/>)で公開しています。

●Mさんの映画紹介

-----※ 会員動向 ※-----

村山夏樹さん 群馬県立女子大を退職し、広島県へ転出。

大学図書館問題研究会 群馬支部報 Vol.11 No.1

発行日 / 2013年3月25日

発行 / 大学図書館問題研究会 群馬支部 <http://www.daitoken.com/gunma/>

事務局 / 高崎健康福祉大学図書館内 井ノ口

〒370-0033 高崎市中大類町37-1 Tel.027-352-1290